

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月1日

上場会社名 シダックス株式会社 上場取引所 大
 コード番号 4837 URL http://www.shidax.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 志太 勤一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 (氏名) 若狭 正幸 TEL 03-5784-8909
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	139,507	△1.2	3,589	△13.3	3,190	△2.6	1,248	315.5
24年3月期第3四半期	141,197	△4.5	4,138	46.9	3,275	52.3	300	ー

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 1,262百万円 (656.3%) 24年3月期第3四半期 166百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	34.07	ー
24年3月期第3四半期	7.88	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	87,604	20,608	23.4	571.74
24年3月期	89,679	20,445	22.7	544.18

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 20,524百万円 24年3月期 20,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	ー	0.00	ー	15.00	15.00
25年3月期	ー	0.00	ー		
25年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	195,000	3.6	7,000	18.8	6,000	23.6	1,000	28.0	26.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期3Q	40,918,762株	24年3月期	40,918,762株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	5,019,816株	24年3月期	3,519,588株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期3Q	36,629,982株	24年3月期3Q	38,124,757株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての御注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ（<http://www.shidax.co.jp/ir/>）に掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を中心とした国内需要が下支えしたものの、長引くデフレ基調に加え、欧州の債務問題や新興国の経済成長鈍化、近隣諸国との関係悪化などが企業業績に影を落とし、政権交代及びこれに伴う金融緩和政策への期待が高まるものの、先行き不透明な状況が続いております。また、当社グループが属する業界におきましても、雇用不安や所得水準の低迷などによるお客様の生活防衛意識の常態化、余暇活動の目的の多様化・複合化などから、引き続き厳しい状況が続いております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は139,507百万円（前年同四半期比1.2%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は3,589百万円（前年同四半期比13.3%減）となり、経常利益は3,190百万円（前年同四半期比2.6%減）、四半期純利益は1,248百万円（前年同四半期比315.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、商品・物流コストの削減、在庫の削減、品質管理の強化などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は32,515百万円（前年同四半期比7.5%減）、セグメント利益は2,845百万円（前年同四半期比11.8%減）となりました。

② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「陳建一プロデュース四川料理フェア」などのイベント展開、宴会パックの推進、一元物流システムの導入強化、材料・労務管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供、仮設住宅で食生活セミナーとクッキング教室を開催するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は23,291百万円（前年同四半期比1.1%増）、セグメント利益は1,404百万円（前年同四半期比1.5%増）となりました。

③ メディカルフードサービス事業

経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、ハロウィンなどのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は26,974百万円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント利益は889百万円（前年同四半期比12.6%減）となりました。

④ レストランカラオケ事業

厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識、節約志向が高まり、お客様のレジャーに対する意識も一段と冷え込み、低価格競争も激化しており、大変厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、秋・冬メニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、「歌って当てようINAC神戸レオネッサ・プレゼントキャンペーン」、「ハッピーハロウィン2012」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「メンズデー」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、マスメディア連動企画の取り組みなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大(600万人突破)し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。しかしながら、衆議院選挙、ロンドンオリンピックや猛暑、集中豪雨等の不安定な天候が続くなど外部環境の影響もあり、厳しい結果となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は34,138百万円(前年同四半期比5.6%減)、セグメント利益は1,558百万円(前年同四半期比9.5%減)となりました。

⑤ スペシャリティーレストラン事業

米国における状況は、失業率等の経済指標において、緩やかな回復傾向が続いております。このような環境のもと、ケータリング事業の強化、季節イベントなどの販売促進活動の実施により売上増加に努めるとともに、労務コストの見直しや不採算店の撤退などにより、収益性の向上に努めてまいりました。

国内における状況は、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、季節イベントの実施、インターネットによる販促強化および会員メール配信強化により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は12,990百万円(前年同四半期比0.9%増)、セグメント損失は292百万円(前年同四半期は503百万円のセグメント損失)となりました。

⑥ コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を23店舗出店、POSを効果的に活用し発注精度の改善を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。母の日・沖縄フェア・ハロウィン・クリスマスなどの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、労務費、経費の徹底管理により、赤字店舗の改善に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,978百万円(前年同四半期比4.1%増)、セグメント利益は338百万円(前年同四半期比8.9%増)となりました。

⑦ トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、少子高齢化と過疎化が同時進行する中で、財政再建と地域活性化のニーズが高まり、着実に民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、円高や海外経済の減速、デフレ経済の進行や厳しい雇用情勢の中で同業他社との競争が激化しており、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行サービスの提案を行い、既存取引先の管理営業強化、スクールバスを中心としたバス運行管理業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来の学校給食業務及び図書館業務に加え、清掃業務の他、東京都世田谷区、石川県七尾市、広島県竹原市等より指定管理者として施設管理・運営を受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と適正運営による収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28,105百万円(前年同四半期比3.6%増)、セグメント利益は1,371百万円(前年同四半期比10.6%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,075百万円減少し87,604百万円（前連結会計年度末比2.3%減）となりました。流動資産においては、791百万円増加し28,903百万円となりました。これは主に、現金及び預金が494百万円及び受取手形及び売掛金が219百万円増加したことによります。固定資産においては、2,866百万円減少し58,700百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金が302百万円増加したことにより投資その他の資産が266百万円増加した一方、有形固定資産が2,371百万円及び無形固定資産が762百万円減少したことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ2,237百万円減少し66,996百万円（前連結会計年度末比3.2%減）となりました。流動負債においては、1,635百万円減少し37,783百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が881百万円増加した一方、1年内返済予定の長期借入金が1,141百万円及びその他に含まれているリース債務が1,230百万円減少したことによります。固定負債においては、602百万円減少し29,212百万円となりました。これは主に、社債が860百万円増加した一方、長期借入金が1,146百万円及びその他に含まれているリース債務が316百万円減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ162百万円増加し20,608百万円（前連結会計年度末比0.8%増）となりました。これは主に、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が517百万円増加した一方、四半期純利益1,248百万円の計上及び剰余金の配当560百万円により利益剰余金が687百万円増加したことによります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント上昇し23.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ367百万円増加し9,391百万円（前連結会計年度末比4.1%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、6,665百万円の資金増加（前年同四半期は9,766百万円の資金増加）となりました。これは主に、法人税等の支払額が1,888百万円、賞与引当金の減少額が1,052百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が3,239百万円、減価償却費が5,009百万円、のれん償却額及び負ののれん償却額が610百万円及び仕入債務の増加額が884百万円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、1,936百万円の資金減少（前年同四半期は1,487百万円の資金減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1,211百万円、敷金及び保証金の差入による支出が738百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、4,363百万円の資金減少（前年同四半期は4,537百万円の資金減少）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が7,214百万円、社債発行による収入が1,759百万円及び短期借入れによる収入が896百万円あった一方、長期借入金の返済による支出が9,506百万円、リース債務の返済による支出が2,431百万円、社債の償還による支出が630百万円、短期借入金の返済による支出が580百万円、配当金の支払額が561百万円及び自己株式の取得による支出が517百万円あったことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月18日に公表いたしました通期の連結業績予想について変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,255	9,750
受取手形及び売掛金	12,938	13,158
商品及び製品	1,190	1,227
原材料及び貯蔵品	1,134	1,324
その他	3,609	3,460
貸倒引当金	△17	△17
流動資産合計	28,111	28,903
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,230	17,393
その他(純額)	8,824	7,290
有形固定資産合計	27,055	24,684
無形固定資産		
のれん	10,124	9,662
その他	1,911	1,611
無形固定資産合計	12,036	11,274
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,968	11,270
その他	11,992	11,923
貸倒引当金	△484	△451
投資その他の資産合計	22,475	22,742
固定資産合計	61,567	58,700
資産合計	89,679	87,604

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,027	8,909
短期借入金	—	310
1年内返済予定の長期借入金	11,163	10,022
1年内償還予定の社債	450	760
未払法人税等	943	800
ポイント引当金	324	311
役員賞与引当金	59	27
賞与引当金	2,241	1,189
株主優待引当金	223	98
その他	15,985	15,355
流動負債合計	39,419	37,783
固定負債		
社債	1,400	2,260
長期借入金	21,814	20,667
役員退職慰労引当金	551	569
資産除去債務	3,058	3,102
その他	2,990	2,613
固定負債合計	29,814	29,212
負債合計	69,233	66,996
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,838	9,525
自己株式	△1,130	△1,648
株主資本合計	21,766	21,936
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73	81
為替換算調整勘定	△1,488	△1,492
その他の包括利益累計額合計	△1,414	△1,411
少数株主持分	94	83
純資産合計	20,445	20,608
負債純資産合計	89,679	87,604

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	141,197	139,507
売上原価	121,624	120,848
売上総利益	19,573	18,658
販売費及び一般管理費	15,434	15,069
営業利益	4,138	3,589
営業外収益		
受取利息	14	13
受取配当金	8	9
団体定期配当金	143	116
負ののれん償却額	119	111
その他	92	276
営業外収益合計	378	526
営業外費用		
支払利息	862	668
寄付金	150	—
その他	228	256
営業外費用合計	1,241	925
経常利益	3,275	3,190
特別利益		
固定資産売却益	37	14
保険差益	11	—
退店補償金受入益	—	70
特別利益合計	48	84
特別損失		
レストラン等店舗閉鎖損	31	35
貸倒損失	158	—
その他	31	0
特別損失合計	221	35
税金等調整前四半期純利益	3,103	3,239
法人税、住民税及び事業税	981	1,437
法人税等調整額	1,815	542
法人税等合計	2,797	1,980
少数株主損益調整前四半期純利益	305	1,258
少数株主利益	5	10
四半期純利益	300	1,248

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	305	1,258
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	7
為替換算調整勘定	△119	△4
その他の包括利益合計	△139	3
四半期包括利益	166	1,262
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	161	1,251
少数株主に係る四半期包括利益	5	10

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,103	3,239
減価償却費	5,677	5,009
のれん償却額及び負ののれん償却額	630	610
賞与引当金の増減額(△は減少)	△949	△1,052
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△6	△32
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△90	△125
受取利息及び受取配当金	△23	△22
支払利息	862	668
固定資産売却損益(△は益)	△37	△14
保険差益	△11	—
退店補償金受入益	—	△70
貸倒損失	158	—
売上債権の増減額(△は増加)	△918	△183
たな卸資産の増減額(△は増加)	△262	△243
未収入金の増減額(△は増加)	200	125
仕入債務の増減額(△は減少)	816	884
未払消費税等の増減額(△は減少)	162	△311
未払金の増減額(△は減少)	1,062	△96
未払費用の増減額(△は減少)	426	230
預り金の増減額(△は減少)	402	508
その他	496	47
小計	11,700	9,173
利息及び配当金の受取額	23	22
利息の支払額	△824	△641
保険金の受取額	13	—
法人税等の支払額	△1,147	△1,888
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,766	6,665

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	△310	△434
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	310	310
有形固定資産の取得による支出	△561	△1,211
有形固定資産の売却による収入	254	92
子会社株式の取得による支出	△22	△22
無形固定資産の取得による支出	△567	△99
事業譲受による支出	—	△82
敷金及び保証金の差入による支出	△702	△738
敷金及び保証金の回収による収入	163	292
その他	△50	△42
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,487	△1,936
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	411	896
短期借入金の返済による支出	△238	△580
リース債務の返済による支出	△2,653	△2,431
長期借入れによる収入	7,209	7,214
長期借入金の返済による支出	△9,664	△9,506
社債の発行による収入	1,954	1,759
社債の償還による支出	△500	△630
配当金の支払額	△582	△561
自己株式の取得による支出	△466	△517
その他	△7	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,537	△4,363
現金及び現金同等物に係る換算差額	△36	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,704	367
現金及び現金同等物の期首残高	8,338	9,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,043	9,391

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラン 事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	1,105	23,028	27,996	36,155	12,872	10,545	27,136	138,841	2,355	141,197
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	34,040	545	10	40	54	11	132	34,834	1,329	36,164
計	35,146	23,574	28,006	36,195	12,927	10,557	27,269	173,676	3,685	177,362
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	3,226	1,383	1,016	1,721	△503	311	1,533	8,690	219	8,909

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	8,690
「その他」の区分利益	219
セグメント間取引消去	△209
全社費用(注)	△4,561
四半期連結損益計算書の営業利益	4,138

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフー ドサービ ス事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	898	23,291	26,974	34,138	12,990	10,978	28,105	137,377	2,130	139,507
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	31,617	550	7	27	52	14	98	32,367	1,305	33,672
計	32,515	23,842	26,982	34,165	13,042	10,992	28,204	169,744	3,435	173,179
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,845	1,404	889	1,558	△292	338	1,371	8,115	100	8,215

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	8,115
「その他」の区分利益	100
セグメント間取引消去	△50
全社費用(注)	△4,575
四半期連結損益計算書の営業利益	3,589

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。